

他工事又は他工程との取合い  
 工事区分表による。これにより難い場合は監督職員と協議する。

埋設配管・配線および鉄筋調査  
 あと施工アンカー工事  
 6章および6章による

コア抜き、はつり工事等  
 ※ 既存資料調査  
 ・ 探査機（電磁波レーダー法又は電磁波誘導法）による探査  
 ・ 配管・配線等の位置の露出を行う範囲 ※ 図示  
 ・ 放射線透過試験  
 労働安全衛生法、「電離放射線障害防止規制」（昭和47年労働省令第41号）等に定めるところによるほか、次に示す。  
 (1) 作業主任者は、エックス線作業主任者の資格を有するものとし、資格を証明するものとし、資格を証明する資料を監督職員に提出する。  
 (2) 放射線照射量は最小限のものとし、照射中は人体に影響のない程度まで照射器より離れる。また、作業者以外の立ち入り禁止措置を講ずる。  
 (3) 露出時間は、コンクリートの厚さ等により、適宜調整する。  
 (4) 付近にフィルム、磁気ディスク等放射線の影響を受けるものがある場合は確認する。  
 (5) 塵埃の発生は、表裏でズレないように措置を講ずる。

撮影枚数 枚  
 フィルムサイズ \_\_\_\_\_  
 コンクリート厚さ \_\_\_\_\_ cm  
 ・ 既存躯体に穿孔する場合に、金属探知により電源供給が停止できる付属装置を用いる。

ベンチマーク  
 基準位置  
 基準地盤高さ  
 設置の方法

騒音・粉じん等の対策  
 ・ 防音パネル  
 ・ 防音シート  
 防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲  
 ・ 工事に必要な範囲

足場等  
 ・ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。  
 外部足場 ○設置する (設置範囲) (工事に必要な範囲)  
 ・ 設置しない  
 防護シート ○設置する (設置範囲) (工事に必要な範囲)  
 ・ 設置しない  
 内部足場 ・ 設置する (※ 脚立、足場板等) ・ 設置しない  
 ・ 材料、撤去材等の運搬方法  
 種別 (・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ○ E種)  
 C種: 利用可能なエレベーター ( )  
 D種: 利用可能な階段 ( )

既存部分の養生  
 1) 養生方法等  
 ○ 既存部分 養生方法 (・ ※ビニルシート、合板)  
 ・ 既存家具、既存設備等 養生方法 (・ ※ビニルシート等)  
 ・ 既存ブラインド、カーテン等 養生方法 (・ ビニルシート等) 保管場所 (・ 図示)  
 ・ 固定された備品、机、ロッカー等の移動 (・ 図示)  
 2) 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

仮設間仕切り  
 1) 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ・ 図示  
 2) 仮設間仕切りの種別と材質等

種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填
A種	セッコウボード	なし	グラスウール
	種類( )	片面	厚さ(mm)
B種	厚さ( mm ※9.5mm)	・	
	合板 材種( mm ※9mm)	・	
※ C種	防炎シート		

3) 仮設間仕切りに設ける仮設扉の材質等

材質	仕上げ	塗装	設置箇所
・	・	・ なし	・ 箇所
※ 木製	※ 合板張り程度	・ 片面	・ 図示

施工数量調査  
 調査範囲 ・ 図示 ○ 防水改修範囲  
 調査方法 ・ 図示  
 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ・ 図示  
 調査報告書 提出部数: 2部

降雨等に対する養生方法 (とい共)  
 ・ ※改修標準仕様書3.1.3(5) (ア)～(イ)による。

改修工法の種類及び工程  
 防水改修工法の種類 (・ SAS ) 工法  
 シーリング改修工法の種類 ( ) 工法

既存防水の処理  
 [3.2.3, 4, 6]  
 既存保護層の撤去 ・ 行う (範囲) ・ 図示 ( )  
 ○ 行わない  
 既存防水層の撤去 ・ 行う (範囲) ・ 図示 ( )  
 ○ 行わない  
 既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去  
 ・ 行う (・ M4S ・ M4S1 ・ M4C ・ M4D1 ・ L4X)  
 ○ 行わない

既存下地の処理  
 [3.2.6]  
 既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ・ 図示  
 POS工法及びPOSII工法(機械的固定方法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置  
 ・ ※改修標準仕様書3.2.6(4) (イ) (a) ①～③による  
 設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理  
 ・ 図示  
 ・ 監督職員と協議する

アスファルト防水  
 [3.3.2～5]  
 屋根保護防水  
 防水層の種類  

工法	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護
P2A	A-1			※* エポキシ樹脂 厚さ0.15mm 以上	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R1250
	A-2				
	A-3				
P1B	B-1			※JIS R1250	
	B-2				
	B-3				
P2A1	A1-1		(種類) JISA9521Iに基づく 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種 b A (スキン層付き) (厚さ) ・ ・ 25mm ・ 50mm	・	
	A1-2				
	A1-3				
P1B1 T1B1	B1-1			・	
	B1-2				
	B1-3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ  
 用途による区分  
 材料構成による区分 ※R種  
 厚さ mm以上  
 ※改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による  
 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ  
 用途による区分  
 材料構成による区分 ※R種  
 厚さ mm以上  
 ※改修標準仕様書3.3.3から表3.3.9による  
 平場の保護コンクリートの厚さ  
 こて仕上げ ※水下 80mm以上  
 床タイル張り ※水下 60mm以上

乾式保護材  
 農業系パネル: 無石棉の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形シートのクレープ養生したもの。  
 金属系パネル: 金属板と樹脂を積層一体化したもの。

屋根露出防水  
 防水層の種類  

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反射率防水の適用	備考
M4C	C-1			・ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様による	・	・
	C-2					
	C-3					
	C-4					
M3D P0D	D-1			・ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様による	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	D-2					
	D-3					
	D-4					
P0D1 M3D1 M4D1	D1-1	改修標準仕様書3.3.2(9) (種類)		・ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様による	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	D1-2					

屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量  
 種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定  
 脱気装置 ・ 個  
 屋根露出防水絶縁断熱工法の場合、ルーフレッドン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示

屋内防水  

工法	種別	施工箇所	保護層
P1E P2E	E-1		・ 設ける ・ 設けない
	E-2		
・ E-1の工程3を行う部位 (・ ※貯水槽、浴室等常時水に接する部位) 押え金物の材質、形状及び寸法 ・ ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度			
屋上排水溝 ・ 図示			

改質アスファルトシート防水  
 [3.4.2, 3]  
 防水層の種類  

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水の適用	備考
				種類	使用量		
M4AS	AS-T1			・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	AS-T2						
	AS-J3						
M3AS	AS-T3			・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	AS-T4						
	AS-J2						
P0AS	AS-T3			・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	AS-T4						
	AS-J2						
	AS-J4						
M3AS1 M4AS1 P0AS1	AS1-T1	改修標準仕様書3.4.2(3) (イ) (種類)		・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・ 改質アスファルトシート製造所の仕様による	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない 防湿層 ・ 設ける ・ 設けない
	AS1-J1						

改質アスファルトシートの種類及び厚さ  
 用途による区分  
 材料構成による区分 ※R種  
 厚さ mm以上  
 ※改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による  
 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ  
 用途による区分 ※R種  
 厚さ mm以上  
 ※改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による  
 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ  
 用途による区分 ※R種  
 厚さ mm以上  
 ※改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による  
 屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量  
 種類 ・ 個 ※改質アスファルトシートの製造所の指定  
 屋根露出防水絶縁断熱工法の防湿用シート (・ 設置する ・ 設置しない)  
 押え金物の材質、形状及び寸法  
 ・ アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度

合成高分子系ルーフィングシート防水  
 [3.5.2～4] [表3.5.1～3]  
 防水層の種類  

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水の適用	備考
				種類	使用量		
POS S4S	S-F1	アプレキャストコンクリート下地		・	・	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	S-F2						
	S-M1						
	S-M2 S-M3						
S3S	S-F1	アプレキャストコンクリート下地		・	・	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	S-F2						
M4S	S-M1			・	・	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	S-M2						
	S-M3						
POS1 S3S1 S4S1 M4S1	S1-F1	アプレキャストコンクリート下地	改修標準仕様書3.5.2(3) (イ) (a) (種類)	・	・	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	S1-F2						
	S1-M1						
	S1-M2						
S2M2	S1-M1	改修標準仕様書3.5.2(3) (イ) (a) (種類)		・	・	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	S1-M2						

S-M2の場合で立上り部が、接着工法の場合立上り面のシート厚さ (・ ※1.5mm)  
 ・ S1-M1及びS1-M2の場合の防湿用フィルム (・ 設置する ・ 設置しない)

塗膜防水  
 [3.6.2, 3]  

工法	種別	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水の適用	備考
			種類	使用量		
POX	X-1		・	・	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	X-2					
L4X	X-1		○	・	・	脱気装置 ・ 設ける ○ 設けない
	X-2					

ウレタンゴム系塗膜防水 X-1 (絶縁工法) の脱気装置の種類及び設置数量  
 種類 ・ 個 ※主材料の製造所の仕様による  
 設置数量 ・ 個 ※主材料の製造所の仕様による

シーリング  
 [3.1.4] [3.7.2, 3, 7, 8]  
 シーリング改修工法の種類  
 ・ シーリング充填工法  
 ・ シーリング再充填工法  
 ・ 幅幅シーリング再充填工法  
 ・ リッジ工法  
 ・ ボンドブローカー張り ・ 適用する ・ 適用しない  
 ・ エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない

シーリング材の種類、施工箇所  
 下表以外は、改修標準仕様書3.7.1による。  

施工箇所		シーリング材の種類(記号)
外壁目地、建具廻り		PU-2
建具水切り工部		MS-2

 シーリング材の目地寸法  
 ・ ○ 図示  
 ・ ※改修標準仕様書3.7.3(1) (イ)～(ウ)による  
 シーリング材の接着性試験  
 ・ ※簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験

とい  
 [3.8.2, 3]  
 といその他の材種  
 ・ 配管用鋼管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ ルーフドレン  
 ルーフドレンの材種その他  

種別	材種	張掛け幅
・ ろく屋根用 (・ 縦型 ・ 横型) ・	・	・ 100mm以上 ・ 80mm以上
・ バルコニー用 ・	・	・ 100mm以上 ・ 50mm以上
・ バルコニー中継用 ・	・	・ 100mm以上 ・ 50mm以上

 とい受金物  
 材種 ・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの  
 形状 ・ ※市販品 (とい径100以下)  
 ・ ※25×45以上 (とい径100を超えるもの)  
 取付け間隔  
 足金物  
 材種 ・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの  
 形状 ・ ※市販品  
 取付け間隔  
 多雷地域の軒どりの取付間隔 ・ 適用する ・ 適用しない  
 ロックウール保温筒及びビーズ法ポリエチレンフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量  
 ・ ※規制対象外  
 既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ・ 図示  
 銅管製といの防露巻き ・ ※改修標準仕様書3.8.4による  
 たてとい受金物の取付け ・ ※図示  
 ルーフドレンの取付け  
 ・ ※水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する

凡例  
 赤文字または□○で囲った箇所が、変更箇所を示す。

年 度 設計年月  
 令和4年 令和4年9月

工事名称  
 舞鶴工業高専(白屋)第1体育館屋根その他改修工事

図面名称  
 特記仕様書2

縮 尺  
 A1 -  
 A3 -

独立行政法人 舞鶴工業高等専門学校  
 総務部長 総務課長 係長 担当  
 図面番号  
 A-03

・アルミニウム製笠木

種類 ・オープン形式（・押出250形 ・押出300形 ・押出350形）  
・板材折曲げ形（・オープン形式 ・シール形式）

本体幅（ ）mm 板厚（ ）mm ※2.0mm

表面処理 種別  
着色 ・標準色（ ） ・特注色（ ）

既存笠木等の撤去 ・行う（範囲 ・図示）  
・行わない

下地補修の工法 ※図示  
板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示

笠木の固定金具の工法等  
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

3.9.2.8

4-2

外壁改修工事  
モルタル塗り仕上げ外壁

4

外壁改修工事（共通事項）

○ 施工数量調査 [1.6.2.3]

調査範囲 ○ 外壁改修範囲 ・ 図示の範囲

調査内容  
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の拳動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。

モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。

コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。  
塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。

既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ・ 図示  
調査報告書の部数 ○ 2部

ポリマーセメント  
スラリー

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮)	引張接着性 (材齢28日)	曲げ性能 (材齢28日)	吸水性 (72時間)	耐久性 (劣化曲げ強さ)
3 以下	3% 以下	0.5 N/mm <sup>2</sup> 以上	5.0 N/mm <sup>2</sup> 以上	15% 以下	5.0 N/mm <sup>2</sup> 以上

保水係数 0.35～0.55  
粘潤係数 0.50～1.00

既調合モルタル

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

4-1

外壁改修工事  
コンクリート打放し仕上げ外壁

○ ひび割れ部改修工法 [4.2.4][4.2.5~7]

・ 樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量 (ml/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※ 200～300	・ 130
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	・ 50～100	・ 40
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5 未満	・ 100～200	・ 70
	0.5以上～1.0 以下	・ 150～250	・ 130

エポキシ樹脂 ・ 低粘度形 ・ 中粘度形  
注入状況の確認方法 ※コアの抜取りを行う

抜取り個数 ※長さ500mごと及びその端数につき1個  
抜取り部の補修方法 ※図示

・ Uカットシール材充填工法  
・ シーリング材  
充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系  
・ 行行  
・ 可とう性エポキシ樹脂

・ シール工法  
○ パテ状エポキシ樹脂  
・ 可とう性エポキシ樹脂

4-3

外壁改修工事  
タイル張り仕上げ外壁

○ 既存モルタル塗りの撤去

○ ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.2.3.8]

・ 既存タイル張りの撤去

・ 外壁タイル張り全面 ・ 図示の範囲  
撤去範囲 ※ 下地モルタルまで ・ 張付けモルタルまで ・ タイルのみ

・ ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.2.3.8]

改修箇所 ※ 既存タイル張り面  
・ 既存タイル撤去面（・ コンクリート面 ・ モルタル面）

・ 樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量 (ml/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※ 200～300	・ 130
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	・ 50～100	・ 40
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5 未満	・ 100～200	・ 70
	0.5以上～1.0 以下	・ 150～250	・ 130

・ 行う（※ 全面 ・ 図示の範囲）

○ 樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.2][4.3.5~8]

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量 (ml/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※ 200～300	・ 130
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	・ 50～100	・ 40
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5 未満	・ 100～200	・ 70
	0.5以上～1.0 以下	・ 150～250	・ 130

エポキシ樹脂 ○ 低粘度形 ・ 中粘度形  
注入状況の確認方法 ※コアの抜取りを行う  
抜取り個数 ※長さ500mごと及びその端数につき1個  
抜取り部の補修方法 ※図示

・ Uカットシール材充填工法 ひび割れ幅(mm):1.0以上  
・ シーリング材  
充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系  
・ シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填  
・ 行行  
・ 可とう性エポキシ樹脂

○ シール工法 ひび割れ幅(mm):0.2mm未満  
○ パテ状エポキシ樹脂  
・ 可とう性エポキシ樹脂

4.1.4[4.3.3][4.3.9.10]

・ 欠損部改修工法

・ 充填工法  
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル（露筋無し）

・ モルタル塗替え工法  
・ 現場調合材料（セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による）  
・ 既調合材料（ ）  
既製目地材 ・ 使用する（形状 ・ 図示）  
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

4.1.4[4.3.4][4.4.11~16]

工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	7ホーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (ml/箇所)
	一般部	指定部	一般部	指定部	
○ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※ 16	※ 25	―	―	※ 25
・ アンカーピンニング部分ポリマーセメントスラリー注入工法	・	・	・	・	・
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※ 13	※ 20	※ 12	※ 20	※ 25
・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・
・ 注入口付アンカーピンニング部分ポリマーセメントスラリー注入工法	・	・	・	・	・
・ 充填工法	―	―	―	―	―
・ モルタル塗替え工法	―	―	―	―	―

アンカーピンの材質  
・  
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

注入口付アンカーピンの材質  
・  
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度

充填工法  
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル

モルタル塗替え工法  
・ 現場調合材料（セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による）  
・ 既調合材料（ ）  
既製目地材 ・ 使用する（形状 ・ 図示）  
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

エポキシ樹脂 ・ 低粘度形 ・ 中粘度形  
注入状況の確認方法 ※コア抜取り検査を行う  
抜取り個数 ※長さ500mごと及びその端数につき1個  
抜取り部の補修方法 ・ 図示

・ Uカットシール材充填工法（既存タイル張り撤去面）  
・ シーリング材  
充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系  
・ シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填 ・ 行行  
・ 可とう性エポキシ樹脂

・ タイル部分張替え工法  
接着剤の種類  
・ ポリマーセメントモルタル  
・ JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系

・ タイル張替え工法  
張替え用材料  
・ 接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系  
・ 張付けモルタル（・ 現場調合材料 ・ 既調合モルタル）

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置  
・ 図示  
※改修標準仕様書表4.5.11による  
外装タイル張り下地等モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験  
・ 行行

・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り  
下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理  
・ 目荒らし工法（改修標準仕様書4.4.9(3)による）

・ タイル張りの工法  
・ 外装タイル（・ 密着張り ・ 改良接着張り ・ 改良積上げ張り）  
・ ユニットタイル（・ マスク張り ・ モザイクタイル張り）  
シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による

・ 有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り  
モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理  
・ 目荒らし工法（改修標準仕様書4.4.9(3)による）

シーリング材の種類  
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ・ ※ポリウレタン系  
伸縮調整目地その他の目地 ・ ※変成シリコーン系  
シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章 防水改修工事による

4.1.4[4.4.3.5][4.4.7.8]

・ 欠損部改修工法

・ タイル張替え工法  
張替え用材料  
・ 接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系  
・ 張付けモルタル（・ 現場調合材料 ・ 既調合モルタル）

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置  
・ 図示  
※改修標準仕様書表4.5.11による  
外装タイル張り下地等モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験  
・ 行行

・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り  
下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理  
・ 目荒らし工法（改修標準仕様書4.4.9(3)による）

・ タイル張りの工法  
・ 外装タイル（・ 密着張り ・ 改良接着張り ・ 改良積上げ張り）  
・ ユニットタイル（・ マスク張り ・ モザイクタイル張り）  
シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による

4.1.4[4.4.4.5][4.4.9~15]

工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	7ホーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (ml/箇所)
	一般部	指定部	一般部	指定部	
・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※ 16	※ 25	―	―	※ 25
・ アンカーピンニング部分ポリマーセメントスラリー注入工法	・	・	・	・	・
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※ 13	※ 20	※ 12	※ 20	※ 25
・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・
・ 注入口付アンカーピンニング部分ポリマーセメントスラリー注入工法	・	・	・	・	・
・ 充填工法	―	―	―	―	―
・ モルタル塗替え工法	―	―	―	―	―

アンカーピンの材質  
・  
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

注入口付アンカーピンの材質  
・  
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度

アンカーピンの材質  
・  
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

・ タイル部分張替え工法  
接着剤の種類  
・ ポリマーセメントモルタル  
・ JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系

・ タイル張替え工法  
張替え用材料  
・ 接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコーン樹脂系  
・ 張付けモルタル（・ 現場調合材料 ・ 既調合モルタル）

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置  
・ 図示  
※改修標準仕様書表4.5.11による  
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験  
・ 行行

・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り  
下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理  
・ 目荒らし工法（改修標準仕様書4.4.9(3)による）

・ タイル張りの工法  
・ 外装タイル（・ 密着張り ・ 改良接着張り ・ 改良積上げ張り）  
・ ユニットタイル（・ マスク張り ・ モザイクタイル張り）  
シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による

・ 目地改修工法 [4.5.2][4.4.16]

・ タイルの形状、寸法等 [4.4.5.8]

施工箇所	部材寸法 (mm)	吸水率による区分			色	再生材の		耐凍害性
		1級	2級	3級		有	無	
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする  
試験張り ・ 行行  
見本焼き ・ 行行

4.5.4

○ 既存塗膜等の除去 [4.5.4]

下地処理及び下地調整

工法	処理範囲	下地面の補修
・ サンダー工法	・ 図示 ※既存仕上げ面全体	○ ひび割れ 改修工法
○ 高圧水洗工法 加圧力 ※30~50MPa程度 15MPa程度	・ 図示 ※既存仕上げ面全体 ○ 石綿板を除く、既存塗膜 脆弱部	○ 浮き部 改修工法 ・ 欠損部 改修工法
・ 塗膜はく離工法	・ 図示 ※既存仕上げ面全体	
○ 水洗い工法	・ 図示 ※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離工法の処理範囲以外の既存仕上げ面	

※ 下地調整塗材（屋外:0-2）  
・ ポリマーセメントモルタル [4.5.4]

4.1.5[4.5.2][4.5.6][表4.5.1]

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量  
※規制対象外  
新規仕上げ塗材の種類  
・ 薄付け仕上げ塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状・工法	吸放湿材	防火材料
・ 外装薄塗材 S i	○ 砂壁状	・ 適用する	・
・ 可とう形外装薄塗材 S i	・ ゆず肌状 （・ 吹付け ・ ローラー塗り）	・ 適用しない	・
○ 外装薄塗材 E	・ 凹凸状 （・ 吹付け ・ ローラー塗り）	・	・
・ 可とう形外装薄塗材 E	・ さざ波状	・	・
・ 防水形外装薄塗材 E	・ 平たん状	・	・
・ 外装薄塗材 S	・ 凹凸状 （・ 吹付け ・ こて塗り） ・ 着色骨材砂壁状 （・ 吹付け ・ こて塗り）	・	・

・ 厚付け仕上げ塗材  
種類（呼び名） 仕上げの形状・工法 吸放湿材 上塗材 防火材料

・ 外装厚塗材 C	・ 吹かし	・ 適用する	・ 適用する	・
・ 外装厚塗材 S i	・ 凸部処理	・ 適用する	・ 適用しない	・
・ 外装厚塗材 E	・ 平たん状 （・ こて塗り ・ ローラー塗り）	・ 適用しない	・ 適用しない	・
	・ 凹凸状 （・ こて塗り ・ ローラー塗り）	・	・	・
	・ ひき起こし （・ こて塗り ・ ローラー塗り）	・	・	・
	・ かき落とし	・	・	・

○ 複層仕上げ塗材  
種類（呼び名） 仕上げの形状・工法 上塗材の種類 耐候性 防火材料

・ 複層塗材 C E	・ ゆず肌状	溶媒	・	・
・ 可とう形複層塗材 C E	・ 凸部処理	※水系	・	・
・ 複層塗材 S i	○ 凹凸状	樹脂	※耐候形3種	・
・ 複層塗材 E		樹脂	・	・
・ 複層塗材 R E		※アクリル系	・	・
・ 防水形複層塗材 C E		樹脂	・	・
○ 防水形複層塗材 E		外観	※つやあり ・メタリック	・
・ 防水形複層塗材 R E		樹脂	・	・

・ 可とう形改修用仕上げ塗材  
種類（呼び名） 仕上げの形状・工法 上塗材の種類 耐候性 防火材料

・ 可とう形改修塗材 E	・ 平たん状	溶媒	・	・
・ 可とう形改修塗材 R E	・ さざ波状	※水系	・	・
・ 可とう形改修塗材 C E	・ ゆず肌状	樹脂	※耐候形3種	・
		樹脂	・	・
		※アクリル系	・	・
		外観	※つやあり ・メタリック	・

凡例  
赤字または□○で囲った箇所が、変更箇所を示す。

年度	設計年月	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号	
令和4年	令和4年9月	舞鶴工業高専（白屋）第1体育館屋根その他改修工事	特記仕様書3	A1 - A3 -	A-04	
				独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校		
				事務部長 総務課長 係長 担当		

タフテッドカーペット, バイルの形状, ニードルパンチカーペット, タイルカーペット, タイルカーベットの敷き方, 合成品樹脂塗床, フローリング張り, フローリング張り, 畳敷き

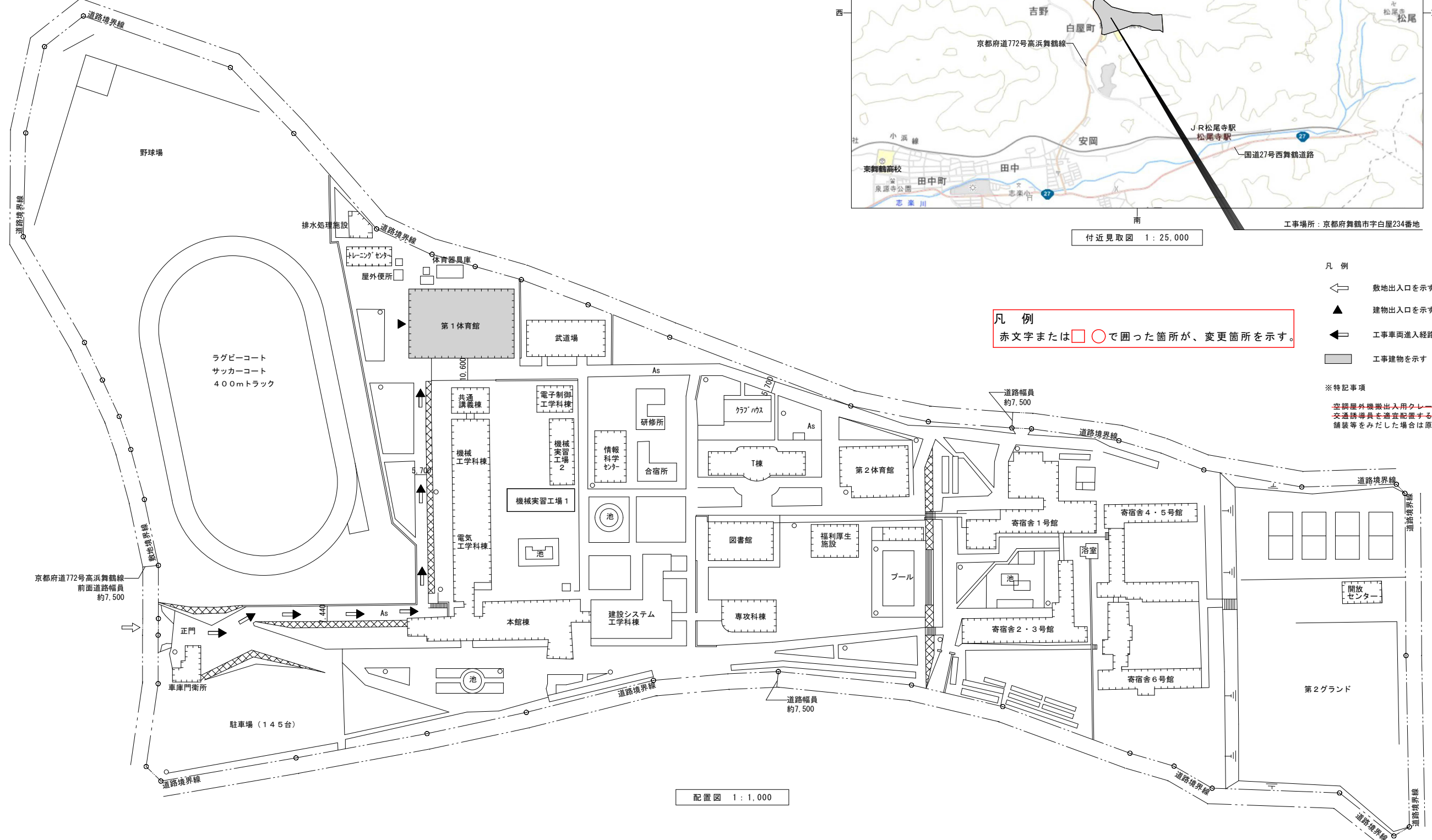
合板類、MDF及びパーティクルボード, ホルムアルデヒド放散量, セッコウボード, 壁紙張り, ホルムアルデヒド放散量, モルタル塗り

有機系接着剤によるタイル, セルフレベリング材, 7 塗装改修工事, 8 耐震改修工事, タイル張り

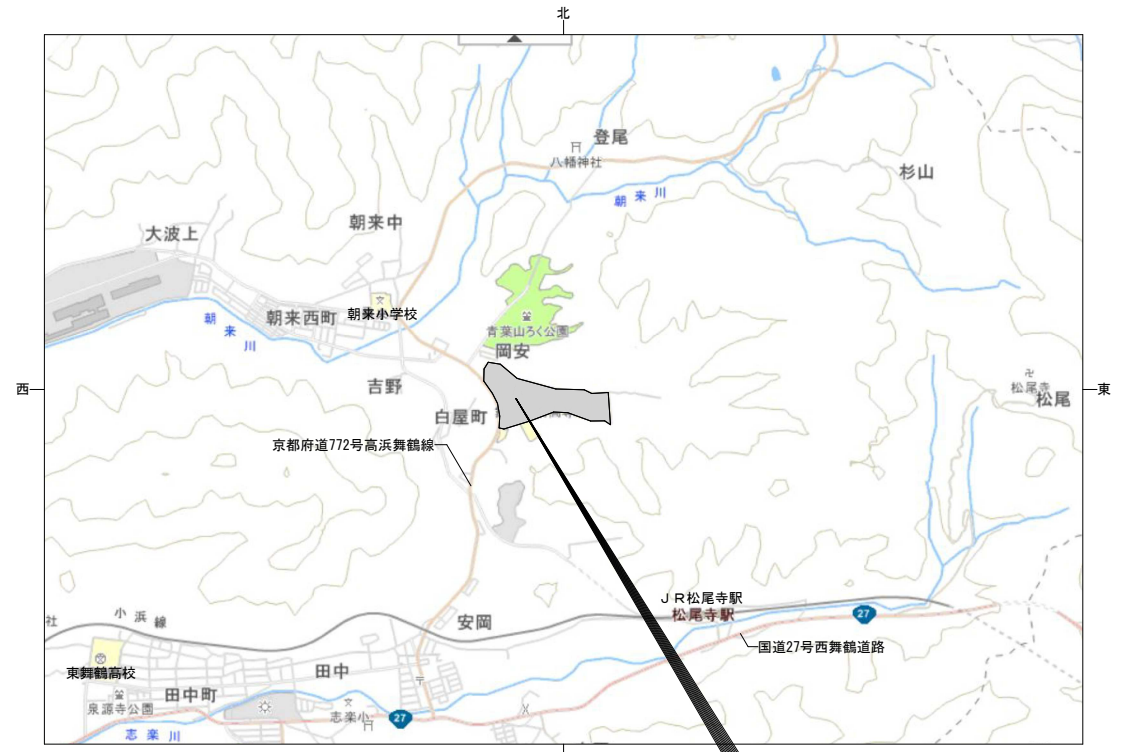
塗装, 塗装の種類, 工種, 塗料の種類, 下地調整, 既存部分の処理等

凡例
赤字または□○で囲った箇所が、変更箇所を示す。

年度: 令和4年, 設計年月: 令和4年9月, 工事名称: 舞鶴工業高専(白屋)第1体育館屋根その他改修工事, 図面名称: 特記仕様書4, 縮尺: A1-A3, 図面番号: A-05



配置図 1 : 1,000



付近見取図 1 : 25,000

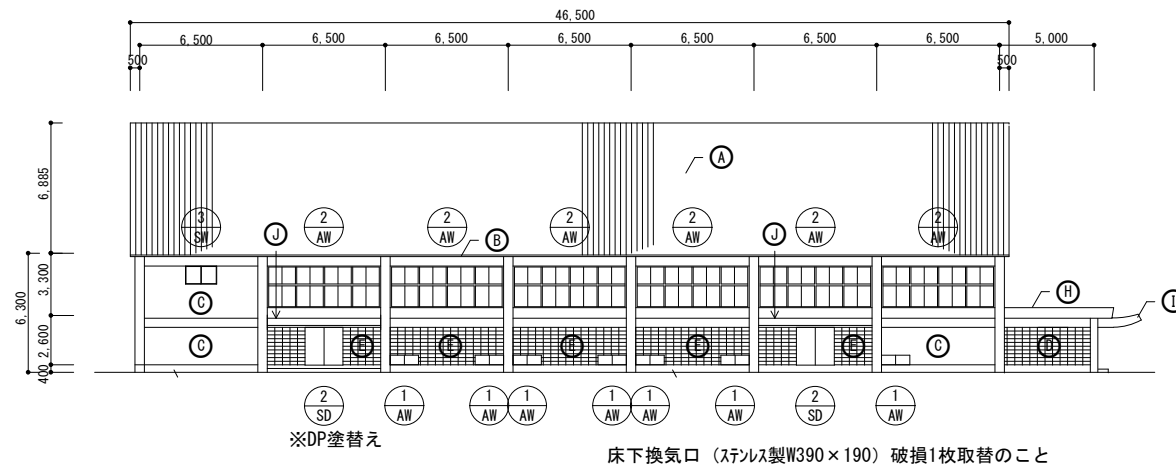
工事場所：京都府舞鶴市白屋234番地

凡例  
赤文字または□○で囲った箇所が、変更箇所を示す。

- 凡例
- ← 敷地出入口を示す
  - ▲ 建物出入口を示す
  - ⇐ 工事車両進入経路を示す
  - 工事建物を示す

※特記事項  
空調屋外機搬出入用クレーンの出入りの際は交通誘導員を適宜配置すること  
舗装等をみだした場合は原状復旧を行うこと

年度	設計年月	工事名称	図面名称	縮尺	独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校 事務部長 総務課長 課長補佐 係長 担当	図面番号
令和4年	令和4年9月	舞鶴工業高専(白屋)第1体育館屋根その他改修工事	配置図	A1 - A3 -		A-07



北側立面図 1:200

※DP塗替え  
床下換気口(ステン製W390×190)破損1枚取替のこと

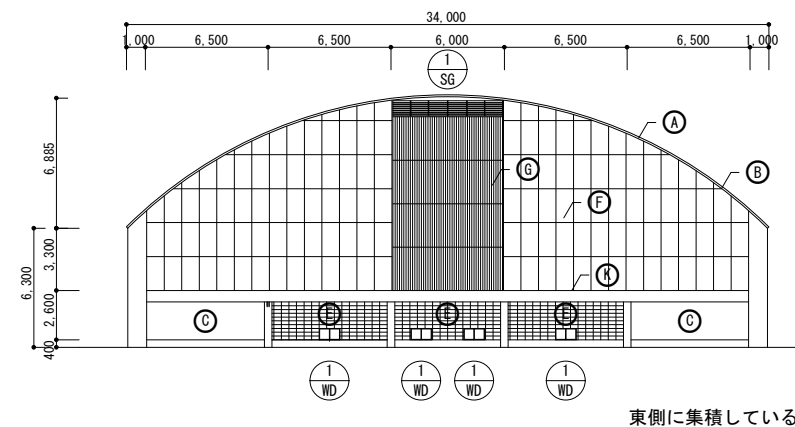
外部仕上表

記号	改修	改修方法	現況
A	屋根(金属部) DP塗替え	高圧洗浄+錆止め塗料塗C種	長尺垂鉛鉄板ぶき
B	屋根(破風板、段鼻隠し板) DP塗替え	下地調整RB種	木製下地のUP塗装
C	外壁(RC部) 防水型複層塗材E塗替え	劣化部補修(※)+高圧洗浄+下地調整(C-2)	リシン吹付
D	外壁(CB部) 防水型複層塗材E塗替え	劣化部補修(※)+高圧洗浄+下地調整(C-2)	リシン吹付
E	外壁(CB部) 防水型複層塗材E塗替え	劣化部補修(※)+高圧洗浄+下地調整(C-2)	防水ブロック
F	外壁(石綿板) DP(A-1種)塗替え	下地調整RB種 注1)	EP塗装
G	外壁(大波石綿板) DP(A-1種)塗替え	下地調整RB種 注1)	EP塗装
H	防水(玄関屋上) 合成分子系膜フイグシート防水	高圧洗浄+既存防水層の上にS4S工法	合成分子系膜フイグシート防水
I	防水(玄関庇) 塗膜防水	高圧洗浄+下地浮き部補修3m2 +樹脂モルタル塗り厚10mm	塗膜防水
J	防水(妻側庇) 塗膜防水	高圧洗浄+樹脂モルタル塗り厚10mm	防水モルタル
K	石綿板及び石綿波板取合い水切(幅80mm) DP塗替え	錆止め塗料塗C種 下地調整 RB種	SOP
L	軒裏及び天井ボード DP(A-1種)塗替え	下地調整 RB種 注1)	石綿板 EP
M	玄関タイル壁 高圧洗浄		

※外壁補修内容

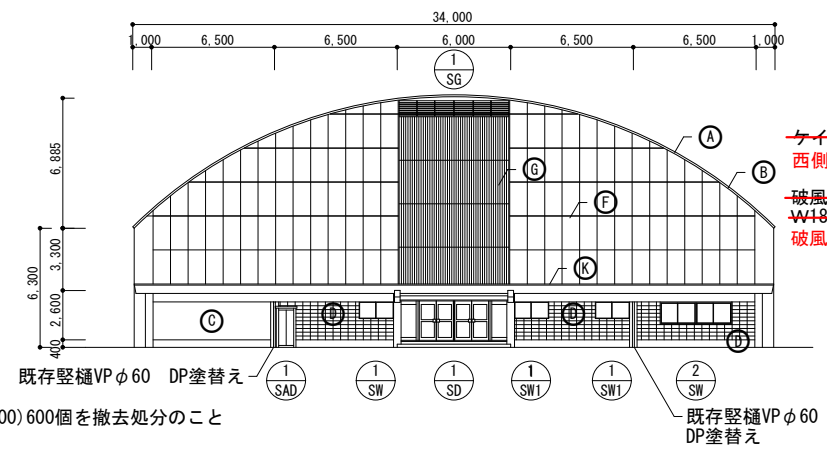
ひび割れ部改修(RC, CB) : ひび割れ部シーリング工法 (0.2mm未満) : 20m  
 " (0.2以上0.5mm未満) : 10m  
 浮き部改修(アコビ`ソニック`部分球`杉樹脂注入工法)浮き部(16本/m2) : 56.5m2

注1) 1. 既存塗膜の除去、2. 汚れ付着物の除去は省略とし、必要な場合は監督職員協議とする。



東側立面図 1:200

東側に集積しているCB(W390×h190×100)600個を撤去処分のこと



西側立面図 1:200

ケイ酸カルシウム板(900×1800)復旧DP塗装共  
 西側妻部石綿板(900×1800)破損3枚撤去後、けい酸カルシウム板(厚8 DP塗装共)復旧  
 破風板R部破損箇所取替  
 W180×D27×L3000 3枚 DP塗装共  
 破風板R部及び段鼻隠し板破損部撤去後復旧(ラワン材W180×D27×L3000 3枚 DP塗装共)

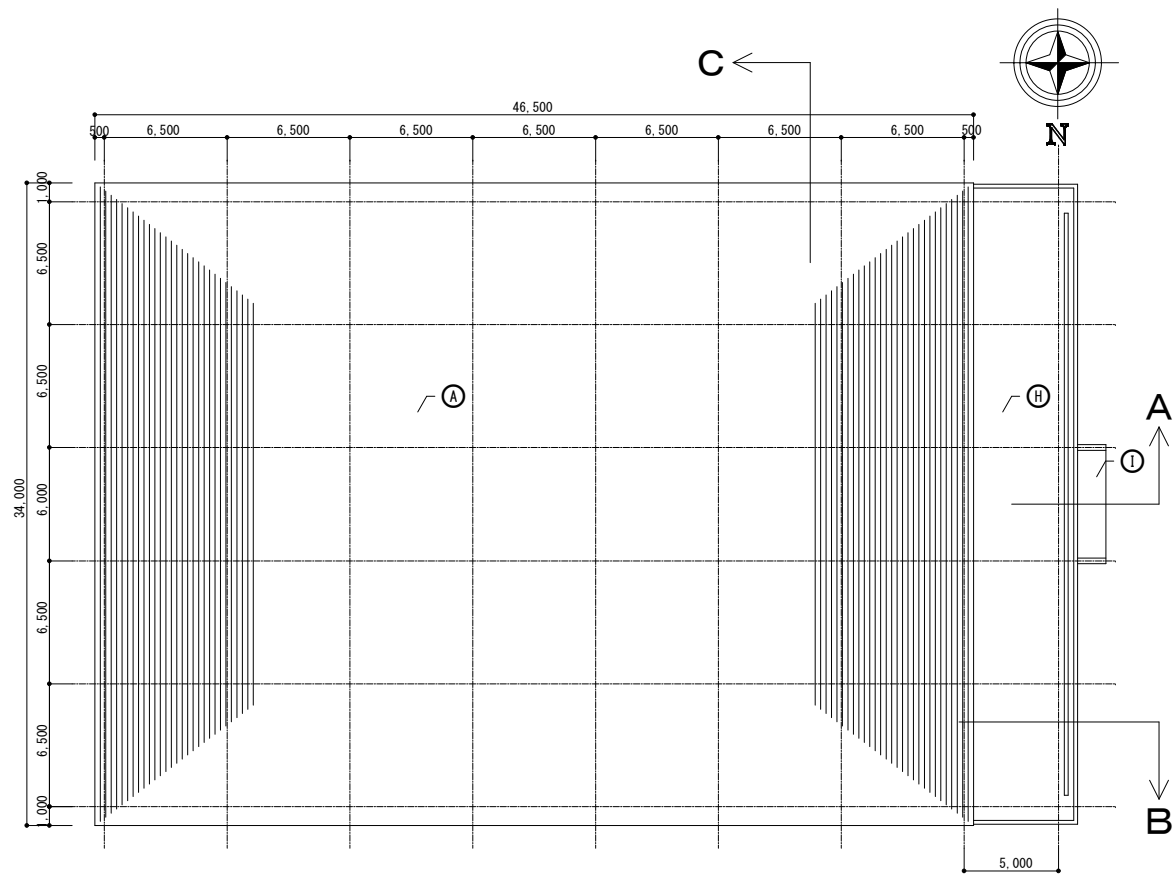
既存建具一覧表

記号	建具名称	寸法	箇所数	処置方法
SW1	鋼製引違い窓	1,575×880	3	DP塗替え、錆止め塗料塗C種 下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装
SW2	鋼製引違い窓	3,700×1,080	1	下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装
SW3	鋼製引違い窓	1,650×960	2	DP塗替え、錆止め塗料塗C種 下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装
SD1	鋼製両開きドア	5,760×2,080	1	DP塗替え、錆止め塗料塗C種 下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装
SD2	鋼製両開きドア	2,000×2,050	4	1カ所のみDP塗替え、錆止め塗料塗C種
SD3	鋼製両開きドア	1,000×2,000	1	DP塗替え、錆止め塗料塗C種 下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装
SWD1	鋼製フラッシュ片開き戸 鋼製引違い窓	850×1,945 1,800×1,080	1	
SG1	鋼製ガラリ	5,800×1,000	2	DP塗替え、錆止め塗料塗C種 下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装
WD1	木製引違い窓	1,100×600	4	SOP塗替え 下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装
AW1	アルミ製引違い窓	1,500×500	14	
AW2	アルミ製引違い窓	5,850×2,050	12	
SAD1	鋼製両開きアングルドア	800×1,800	1	DP塗替え、錆止め塗料塗C種 下地調整 RB種 ※外壁側のみ塗装

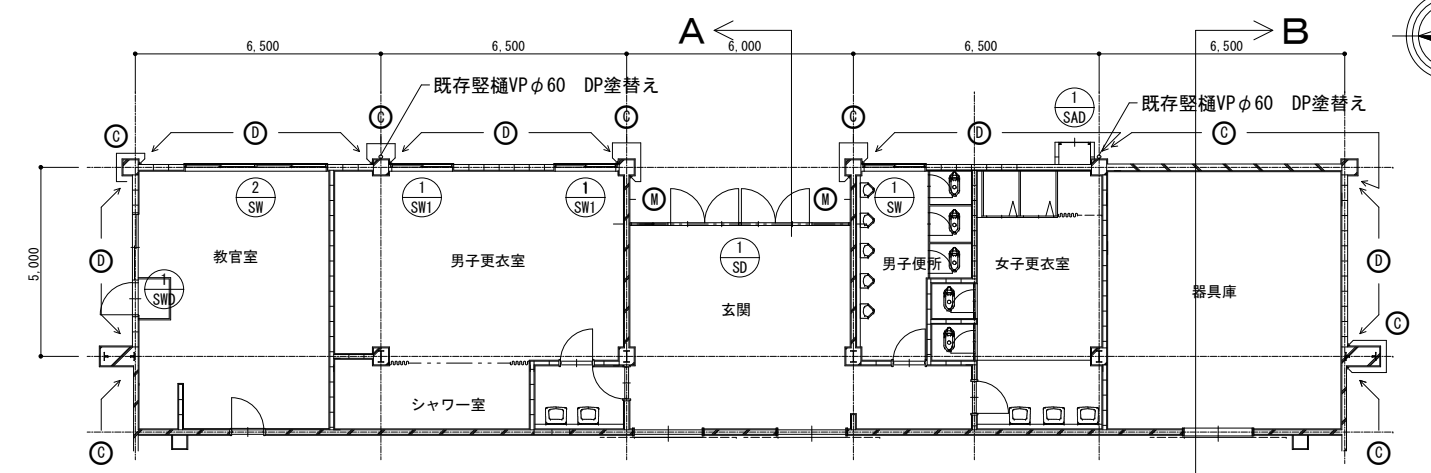
※ WD 1に取付けてある鋼製ガラリ(1,300×800)4カ所SOP塗替え  
 SWD1、SW1、SW2を塗装する際には、既存アルミガラリを取外し工事完了後は再度取付のこと。  
 SW2に設置しているアルミガラリ(1,520×960)のバー(□20×15)1本紛失を復旧すること。

凡例  
 赤文字または□○で囲った箇所が、変更箇所を示す。

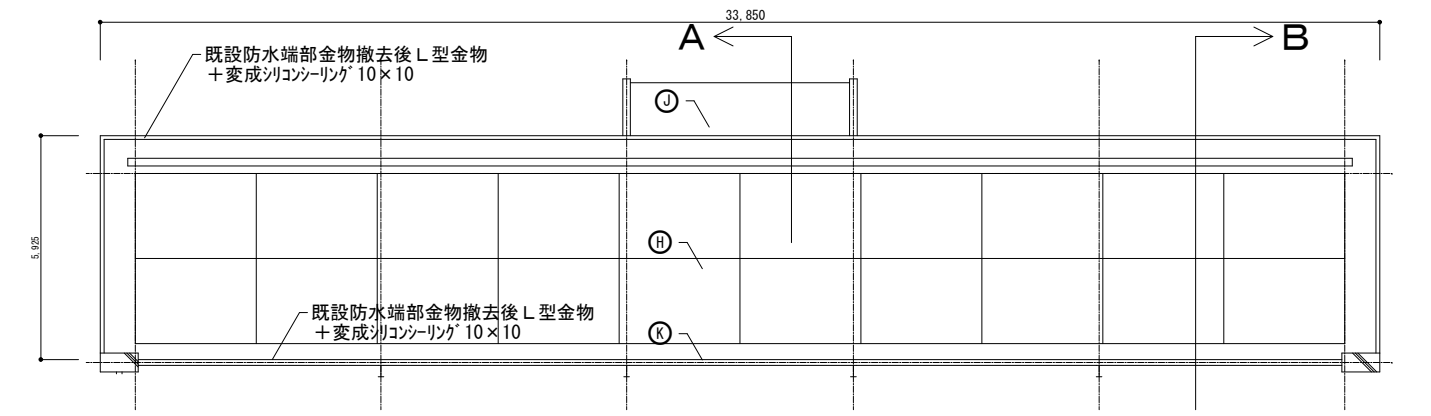
年度	設計年月	工事名称	図面名称	縮尺	独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校 事務部長 総務課長 課長補佐 係長 担当	図面番号
令和4年	令和4年9月	舞鶴工業高専(白屋)第1体育館屋根その他改修工事	外部仕上表、既存建具一覧表、立面図	A1 - 1/200 A3 - 1/400		A-08



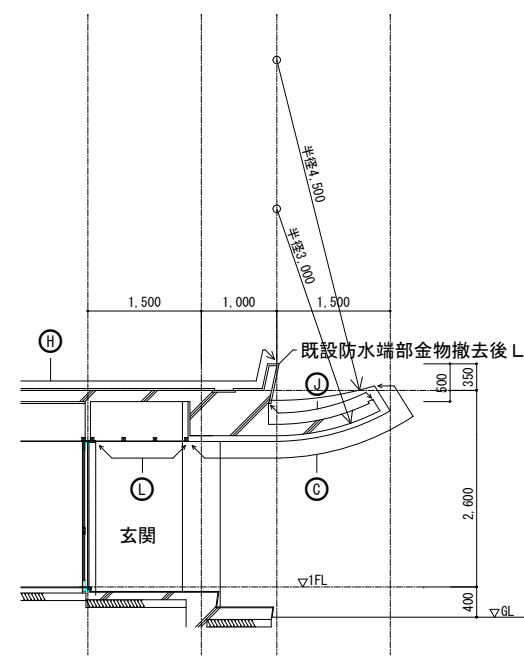
屋根平面図 1:200



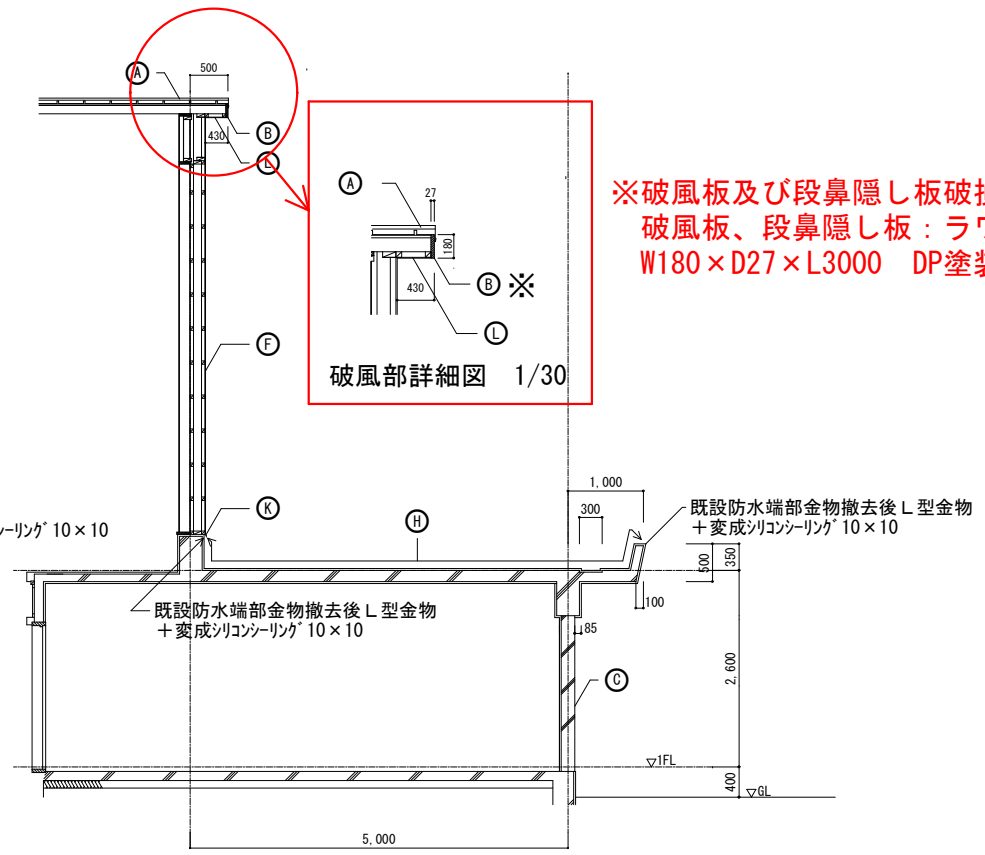
玄関平面図 1:100



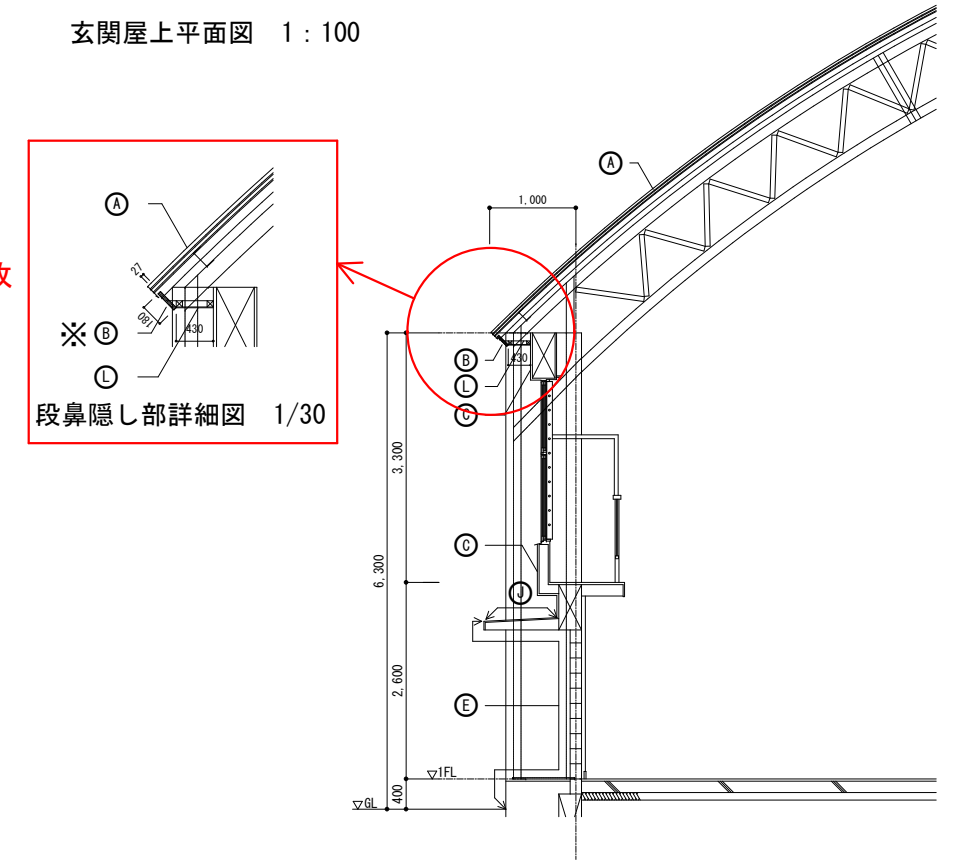
玄関屋上平面図 1:100



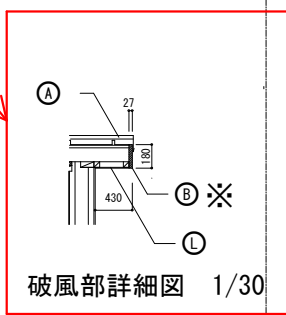
A断面図 1:50



B断面図 1:50

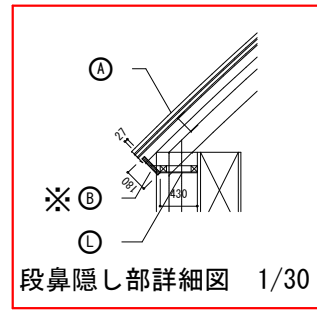


C断面図 1:50



破風部詳細図 1/30

※破風板及び段鼻隠し板破損部取替  
破風板、段鼻隠し板：ラワン材  
W180×D27×L3000 DP塗装共 3枚



段鼻隠し部詳細図 1/30

凡例  
赤文字または□○で囲った箇所が、変更箇所を示す。

年度	設計年月	工事名称	図面名称	縮尺	独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校 事務部長 総務課長 課長補佐 係長 担当	図面番号
令和4年	令和4年9月	舞鶴工業高専(白屋)第1体育館屋根その他改修工事	平面図、断面図	A1 - 1/200, 1/100 1/50, 1/30 A3 - 1/400, 1/200 1/100, 1/60		A-09